

平成25年度第2回 歩行者移動支援有識者委員会の概要

1. 開催日時等

日時：平成26年3月10日（月）14:30～16:30

場所：中央合同庁舎3号館4階 総合政策局局議室

出席者：委員長 岡部 篤行 青山学院大学総合文化政策学部 教授

委員 加藤 浩徳 東京大学大学院工学系研究科 教授

委員 河端 瑞貴 慶應義塾大学経済学部 准教授

委員 越塚 登 東京大学大学院情報学環 教授

委員 竹中 ナミ 社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長

委員 古屋 秀樹 東洋大学国際地域学部 教授

事務局：国土交通省総合政策局総務課・政策統括官（国土）付

2. 委員からの主な意見

【事業全体に対する意見】

- 歩行者移動支援サービスは、使う方々の問題を解決するためのツールとしなければいけない。今後に向けて、PDCA（Plan, Do, Check, Action）のサイクルを回してどこに問題があるのかを把握したうえで、解決するための方針を今後も継続的に考える必要がある。ビジネスモデルについては、地域の実情によって変わってくると思うので、サービスで何を目指しているのかをチェックしていくことが必要である。
- 歩行者移動支援サービスでは、あらゆる情報を提供しユーザが必要な情報を選択する方法と、おすすめ回遊ルートなど情報提供者側で選択した情報を与える方法がある。どちらの方法が良いのかは地域の状況に合わせて選択することが重要である。
- 歩行者移動支援サービスを実施するために、以前は専用端末を利用するなど技術的な検討が主となっていたが、近年ではスマートフォンの普及などにより技術的な検討要素が少なくなってきた。これからは、多くの利用者にサービスを使ってもらい、利用者ニーズの多様化に合致したサービスを検討することが重要である。
- 歩行者移動支援サービスでは、サービス単体でビジネスモデルを考えることは難しい。継続的にサービスを維持するためには、歩行者移動支援サービスと地域に特化した情報を組み合わせてサービスを展開することが考えられる。
- 歩行区間ネットワークデータの活用方法に関しては、年々高度化していると考えられる。また、障害を持った方が自宅で目的地のバリアフリーに関する情報を事前に見ることができるようになることは大きな進歩である。今後は、どの

ようにシステムを認知してもらうかが課題である。

【各地区での取組みに対する意見等】

協議会の名称	委員からの主な意見等
土湯温泉町復興再生協議会	<ul style="list-style-type: none">・歩行空間ネットワークデータを利用し障がい者向けのナビゲーションサービスを実施する上で工夫した点はあるか (協議会回答) 坂道が多いのでバリアを一定の条件にした検索だと出発地から目的地まで到達できるルートがないという検索結果になることがあり、検索方法を工夫した。今後は、歩行空間ネットワークデータの更新をどのように実施していくかが課題であると考えている。
あいとぴあレインボー推進協議会	<ul style="list-style-type: none">・他の協議会と違いユーザとして市民をターゲットとしていることで、情報提供内容などによりきめ細かな付加価値をつけている点などはあるか (協議会回答) バリアフリー施設の情報などをより詳細に調査している。例えば、オストメイト対応のあり、なしなどのきめ細かな情報も提供している。今後は、システムの情報更新等の運営を市民と協力して進めていくことを考えている。
下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会	<ul style="list-style-type: none">・歩行空間ネットワークデータの調査の際に市民も参加して行ったとのことだが、その際に気付いた点はあるか (協議会回答) 下田は、バリアフリー整備が進んでいる地区だと考えていたが、車いすを利用し回遊してみると勾配や幅員などバリアとなる箇所が多いことがわかり、情報提供の必要性を再認識した。
城下町いずし歩行者移動支援協議会	<ul style="list-style-type: none">・システムを観光客へ周知する方法で工夫した点はあるか (協議会回答) 城崎温泉など周辺の観光地とタイアップしてシステムを周知することを考えている。
松江バリアフリーのまちづくり推進協議会	<ul style="list-style-type: none">・視覚障がい者向けの支援システムは、健常者が考えると余分な機能などを盛り込み、操作が難しくなることがあるが、障がい者の意見を取り入れることで利用しやすいシステムとなっていることが評価できる。